

石川の工芸 女性作家のきらめき



天野文堂《鳥巢文庫》 昭和2年 第3回日展 輪島漆器商工業協同組合蔵

■ 絵画にみる江戸のくらし —浮世絵版画を中心に—

■ 天神信仰と文房具

■ 人体彫刻考2 —奏でる—

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

■ 2月前半の展示

- 創刊400号によせて
- ミュージウムウィーク
- 2月の貸し展示室
- 2月の行事予定
- 友の会会員募集
- アラカルト ただいま展示中



歌川広重
《六十余州名所図会 加賀 金澤八勝之内蓮湖之漁火》

第5展示室

特別陳列

石川の工芸 女性作家のきらめき

2月16日(木)～3月22日(水) 会期中無休

学芸員の眼

今回は、当館に所蔵品のない作家の作品も展示します。こうした場合、あらかじめ担当学芸員が作品を選び、美術館・博物館やご所蔵者の方にお問い合わせする方法の他、どの作品を出品しようか、作家ご本人に相談する場合もあります。今回はこのようにお願いしました。①できれば展覧会出品作で、②お気に入りの作品を教えてください。ご本人のお気に入りの作品を展示することは、「きらめき」というコンセプトによく合っていると思われるからです。その結果、受賞作ではないけれども、わたし自身はこんなところが気に入っている、とか、この作品は県内でまだ展示したことがないからぜひ見てほしい、といったお話を聞くことができました。皆さまにもそうした思い入れが伝わる展示にしたいと考えています。ご覧いただく方にとっても、新たなお気に入りの作品と出会う場になれば幸いです。

石川県では、多くの女性が工芸にたずさわってきました。

作家として第一線で活躍する方、ご家族の作家活動を支える方、展覧会出品作よりもっと身近に楽しめる作品を制作する方など、その層はあつく、工芸界を支えています。今回の展示はその中から、とくに展覧会出品作をご紹介します。

女性作家の作品を語る際にはしばしば、表現のやわらかさや優しい色づかいに注目が集まり、どこことなく「女性作家らしさ」を探そうとしてしまいませんか。しかしそればかりでなく、彼女たちは伝統のわざを踏まえつつ、斬新な表現を積極的に試み、時として工芸界に新風をもたらししてきました。女性という枠組みにとらわれず、作品そのものの持つ魅力をお伝えすることが、本展の大きな目



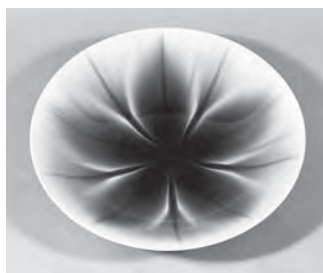
二代砺波宗斎《蘭花文時絵箱》

的

です。また、女性作家たちの制作環境は時代とともに変化し、ライフスタイルの在り方とも深く関わっています。先にも述べたように、現代では幅広い活躍が認められませんが、藩政期から続く石川の工芸文化において、女性たちが本格的に携わるようになったのは、明治時代以降のことです。どのように活躍の幅を広げてきたのか、明治期に活躍した方から、現在の工芸界を牽引する方まで、約20作家の作品からご紹介します。たとえば、二代砺波宗斎《蘭花文時絵箱》(漆芸)、市島桜魚《平文煌八角箱》(漆芸・個人蔵)、山本榮子《夏の日》(人形)、四代 徳田八十吉《彩釉鉢・翠澄》(陶磁)、そのほか本江和美《竹網代四ツ菱編花織紋筥》(竹工・中村記念美術館蔵)、山本茜《雪明り》(截金ガラス・中谷宇吉郎雪の科学館蔵など、分野は多岐に亘ります。女性たちが放つきらめき、どうぞお楽しみください。



吉田淳子《友禅訪問着「静寂の時」》



四代 徳田八十吉《彩釉鉢・翠澄》

九谷焼の美

2月16日(木)～3月22日(水) 会期中無休

一般に、陶芸を鑑賞する際には姿や釉薬の状態などが見所となりますが、古九谷に始まる九谷焼の系譜では、絵付けが重要なポイントとなります。古九谷は、絵付けを離れて存在しないと言われます。初めてこの言葉に接したとき、実に哲学的な言説だと感じました。もちろん江戸時代の陶工がこの文言のまを語ったとは思いませんが、加賀藩三代藩主・前田利常が主導した、加賀の地で色絵磁器を生産しようというプロジェクトに参画した人々の情熱や誇りがこのような言葉に集約されて、今日まで継承されたことは理解できました。

十七世紀半ばの日本において、色絵磁器は新しい芸術ジャンルでした。古九谷の魅力として挙げられる大胆かつ斬新な意匠感覚は、まずこの新しさに由来す

ると言うことができるでしょう。しかし単に新奇さを追求したのであれば、やがては歴史に忘却されたはずですが、古九谷が人々を魅了するのは、量産とは一線を画した高い芸術性ではないでしょうか。哲学者の谷川徹三はそれを「美の高さ」と形容しましたが、古九谷の本質を簡潔に表現した名言だと思えます。そしてこの本質は、特に吉田屋窯を始めとする再興九谷諸窯にとっても大きな課題となりました。

今日全国ブランドとして広く認識されている九谷焼ですが、その歴史には様々な人々の苦闘がありました。特に古九谷の場合は、作者の名前すら明らかではありません。しかし作品には、そのような詮索を超越した強烈な自己主張が漲っているようです。



県文 《色絵鳳凰図平鉢》古九谷

天神信仰と文房具

2月16日(木)～3月22日(水) 会期中無休

新しい年も始まり、ユースでは京都・北野天満宮の初詣、筆始祭と賑わう様子が流れました。間もなく梅園も開きます。この北野天満宮の参道には、加賀藩十三代藩主齊泰・十四代慶寧・十五代利嗣・大聖寺藩十四代藩主利剛としがによって建てられた石碑がありますが、ほとんどの参詣者は気づかずに通ります。なぜ、こうした石碑があるのでしょうか。

石碑が建てられたのは、明治二年(一八六九)です。銘文によると「前の摂政である二条斉敬が、齊泰が『昔神』の末裔であることから、石碑の建立を勧めた」とあります。「昔神」とは菅原道真のことで、齊泰はその子孫だということです。石碑には、齊泰と慶寧による『菅文章』の詩も記されています。

実は、北野天満宮には、前田家より納められたもの

が他にも複数伝えられます。最も早いのは元和四年(一六八八)、三代藩主利常によって奉納された『紺紙金字法華経開結共』で、巻末に「源利光(利常)が、武運繁栄を願って納めた」とあります。この時、利常が名乗ったのは源姓ですが、寛永十八年(一六四二)には、菅原姓と定めることを公言します。そして、その後五十年毎の御神忌にあわせて、前田家は太刀を奉納し続けます。五代綱紀、八代重熙しげひら、十二代治脩はるな、齊泰です。やがて明治の世になっても、前田家の変わらぬ繁栄を願い、道真を崇敬し続けたことが、この石碑よりうかがえます。

本特集では、こうした天神信仰の下に収集された天神画像を、文房具とあわせて紹介します。

《胞輪天神画像》室町時代(16世紀)

第3・6展示室【近現代絵画・彫刻】

優品選

2月16日(木)～3月22日(水) 会期中無休

近現代の絵画・彫刻分野では、この季節、見る人に「春」を感じさせる優品を展示します。

日本画から紹介する一点は、曲子光男《開春》です。風景画を画業の中心に据えた曲子氏にとって、梅の枝振りを中心に描いた本作は希少な作例です。老いた枝から若々しくのびる梢と、紅く膨らみかけたつぼみの清新さ。それに対してポツポツと咲きはじめた梅の匂いに、作者一流の構成力を感じます。

油彩部門の作品では奥田憲三の《待春の丘》、森本仁平の《早春の岸辺》が、ちょうど今頃の季節を感じさせる作品です。前者は丘陵地の畑に緩くカーブして遠くまで続く農道をメインに描いています。傾いた不安定な地平の中を続く道、その左右

女と思しき女性が横笛を吹く姿を表した木彫作品ですが、木の質感を活かしながらも着色された部分の対比が奏功し、澄み渡る笛の音色を感じさせる爽やかな作品です。坂坦道作「御陣乗太鼓」は石川県輪島の名舟の御陣乗太鼓をモチーフにした作品です。作品では太鼓こそ表されていませんが、太鼓の発する勇壮な響きと仮面の演者の迫力を感じさせてくれます。木村珪二作「鳴器」は楽器のアウトラインと女性のボディーラインとを重ねた造形作品で、官能的なイメージを連想させてくれます。展示では、彫刻と楽器や音楽に関係する各種彫刻作品をご覧いただき、音楽と立体造形の融合する世界をお楽しみください。

には雪が少し残り、人の歩みの重さを考えさせます。対照的に後者の風景は空と大地と川が横長の画面に水平にとらえられ、時の流れを感じさせぬ静謐な世界が描かれています。

彫刻からは次の三点を紹介します。田中昭《春葩》しゅんぱは題名の葩(花弁)のように、早春を感じさせる初々しい少女像です。矩幸成《春を包む》かむの手・脚は恥じらいを含む内向的な仕草です。未だ冬ながら春の息吹の内包を感じます。島屋純晴《UNITY-8 大地から空間へ》は錆色を呈し角張った鉄部と、無機質ながら柔らかな曲線を示すステンレス部を合体させた作品です。表情を違える金属の対比は春の芽吹きを連想させてくれます。



曲子光男《開春》

第4展示室

人体彫刻考2 一奏でる一

2月16日(木)～3月22日(水) 会期中無休

人体をモチーフとした彫刻において、音楽・楽器に関係する様々な作品が見られます。そのような作品には、各種楽器演奏に興じる人物の姿を表した作品がある一方、楽器の形と人の姿を融合させた造形的に調和を図った作品もあります。特に演奏楽器により各楽器の持つ音曲の特徴や雰囲気に沿ったところの姿で表される演奏者と、楽器が奏でる音楽性や旋律が造形的に融合したイメージの作品が多く、例えば優雅な音曲を発する楽器にはそれに相応しい華やかな意匠の人物が、また深遠な調への楽器にはそれに相応しい姿で表されるように、音楽性をテーマに演奏者と融和した作品例が見られます。

出品作を紹介すると、澤田政廣作「笛人」は、天

女と思しき女性が横笛を吹く姿を表した木彫作品ですが、木の質感を活かしながらも着色された部分の対比が奏功し、澄み渡る笛の音色を感じさせる爽やかな作品です。坂坦道作「御陣乗太鼓」は石川県輪島の名舟の御陣乗太鼓をモチーフにした作品です。作品では太鼓こそ表されていませんが、太鼓の発する勇壮な響きと仮面の演者の迫力を感じさせてくれます。木村珪二作「鳴器」は楽器のアウトラインと女性のボディーラインとを重ねた造形作品で、官能的なイメージを連想させてくれます。展示では、彫刻と楽器や音楽に関係する各種彫刻作品をご覧いただき、音楽と立体造形の融合する世界をお楽しみください。



尾形喜代治《歌郷》

第4展示室【近現代絵画・彫刻】

絵画にみる江戸のくらし — 浮世絵版画を中心に —

1月4日(水)～2月12日(日) 会期中無休

本展は、人々のくらし、わけても江戸っ子たちのくらしを中心に紹介しています。政治の中心が移動したことを機に、多くの物資や人が江戸のまちに集まりました。それにより、独特の美意識や文化が花開いていったのです。ところが江戸時代の後半になると、江戸っ子たちは好んで旅に出かけ、日常の生活空間を離れて楽しむようになります。粋な江戸くらしを満喫してみせる彼らにも、日々のストレスや、何となく日常に飽き飽きした気持ちがあったのでしょうか。江ノ島や鎌倉、成田山へぶらりと出かけてみたり、箱根で温泉巡りをしたり、伊勢神宮まで足を伸ばす人もたくさんいました。そんな旅好きの江戸っ子が目にした、地図や名所絵の数々をご覧ください。風景画のさきがけ、葛飾北斎《富嶽三十六景》をはじめ、歌川広重《東海道五拾三次》シリーズ、そして金沢や能登の名所を描いた《六十余州名所図会》など。さあ、江戸っ子気分各地を旅してみませんか。

第5展示室【工芸】

東京国立近代美術館 工芸館 名品展 近代工芸案内

12月21日(水)～2月12日(日) 会期中無休

東京国立近代美術館と石川県金沢市が、四年後に迫る移転に向けて、工芸館とその所蔵品を広く知っていただくため企画した「東京国立近代美術館工芸館「名品展」。昨年十二月二十一日の展覧会初日に行われた開会式には、多くのご参列をいただきました。工芸館は昭和五十二年、工芸の専門館としてできたもので、日本近代工芸の代表的な作品を収集し、常時陳列する施設として今日まで活動を続け、所蔵する作品は三、七〇〇点に上ります。

展示室では四十六点の作品に加え、工芸館の移転に関する詳細をパネル展示しております。

※二月十二日午後二時より、当館学芸員によるギャラリートークを会場に行います。



東京国立近代美術館 工芸館

その他の二月前半のコレクション展示室

前田育徳会尊經閣文庫分館

新春優品選

第2展示室【古美術】

新春優品選

第3展示室【近現代絵画・彫刻・書】

書の美

優品選

第4展示室【近現代絵画・彫刻】

没後三〇年 高光一也の世界

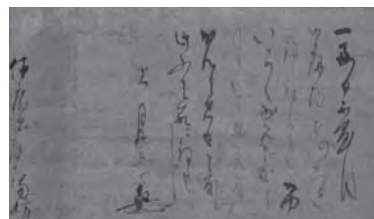
人体彫刻考 ― 手は語る ―

第6展示室【近現代工芸】

新春優品選



赤羽雲庭
《間居幽事多》
第3展示室



《高山右近書状 休庵公宛》
※1月28日から特別展示 第2展示室

二月前半の展示

石川県立美術館だより創刊四百号に寄せて

石川県立美術館館長 嶋崎丞

今の県立美術館が昭和五十八年十一月に開館した時、情報誌をどうするかが話題となりました。それまではB5版四ページ立ての季刊紙でしたが、館の規模自体も大きくなり、開催される展示内容の量も多くなったので、一挙に八ページ立てにし、発行回数も年十二回の月刊紙にする事になりました。

新館開館記念創刊号は、特別仕立てで十二ページの開館記念特集号となっており、当時の私共職員の意気込みが力強く伝わってくるものです。以来八ページ立ての月刊紙を続けているところは今のところ当館のみで、担当は原稿依頼、割付、校正等まさに出版社並みの忙しさで毎日多忙を極めています。これを機会にご意見をお寄せいただきたく思います。

第7～9展示室

金沢学院大学美術文化学部 第14回 卒業研究制作展

2月23日(木)～27日(月) 会期中無休

今年も、美術文化学部の二学科、美術学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸・学芸文化財)、メディアデザイン学科の卒業制作の成果を発表いたします。小さな学部ですから出品作品数は多くありませんが、二人ひとりの表現や解釈の多様性に今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることは楽しいことです。

どうかご覧いただき、忌憚のないご批評ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

◇入場無料
◇連絡先／金沢市末町一〇
金沢学院大学美術文化学部担当受付
電話：〇七六一三九一八八二六

第7展示室

平成28年度 金沢大学 学校教育学類 美術教育専修卒業制作展

2月16日(木)～20日(月) 会期中無休

絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学士課程による平成二十八年度卒業作品を展示します。これらは、主に教職を目指す学生が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。

未熟ではありますが是非ご覧下さいますようお願い申し上げます。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

◇入場無料
◇連絡先／金沢市角間町 金沢大学
人間社会学域学校教育学類 江藤望
電話：〇七六一二六四一五五八一

二月の行事予定

■土曜講座		午後1時30分	美術館講義室 聴講無料
2月4日(土)	浮世絵鑑賞入門		村上尚子 学芸主査
11日(土)	江戸時代の展覧会		有賀茜 学芸員
18日(土)	石川の木彫		北澤寛 普及課担当課長
25日(土)	日本工芸の源流—正倉院宝物②—		西田孝司 学芸第二課長
■映像ギャラリー		午後1時30分	美術館ホール 入場無料
19日(日)	伝統木版画の世界 匠達の技 浮世絵から現代まで		(28分)
26日(日)	映画「水引工芸 津田梅」		(26分)
	消えた古九谷 色絵、青手の出現		(25分)
	映画「衣裳人形 堀柳女」		(26分)
5日(日)	■冬のミュージアムウィーク関連事業 午後1時～3時 二階コレクション展示室 展示室でスケッチGO!(申込不要、要観覧料)		

北陸国展は北陸在住者とゆかりのある国展出品者等で構成され、今年で二十三回展となります。

国画会(国展)は昨年九十回を迎え、毎年春に国立新美術館で開催される歴史ある公募団体です。草創期の絵画部には梅原龍三郎、高村光太郎らが、写真部には野島康三、木村伊兵衛らがいました。

北陸国展での成果が国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部二十三名、写真部二十三名が力作、大作を発表します。ぜひご覧くださいますようお願い申し上げます。

◇入場無料
◇後 援／北國新聞社、テレビ金沢
◇連絡先／横江昌人(北陸国展事務局)
能美市秋常町二五一

第8・9展示室

第23回 北陸国展

2月16日(木)～20日(月) 会期中無休

石川県立美術館友の会 会員募集

3月1日(水)から受付開始! 郵送でのお申し込みは郵便振替で。
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

- ① 会費 / 二,〇〇〇円
- ② 受付期間 / 三月一日(水)より開始。
- ③ 入会手続 / 次のA B いずれかの方法。

A 直接来館してお申し込み

- ・ 会員証 / その場で発行。
- ・ 場 所 / 一階情報・図書コーナー及び事務室
- ・ 申込方法 / 会費(現金)と入会申込書に所定事項を記入して提出。
- ・ 受付時間 / 午前九時三〇分～午後六時(休館日を除く)
- ※ 三月の休館日は、二十三日(木)～二十六日(日)です。

B 郵便局からのお申込み

- ・ 会員証 / 三月末から美術館日よりと共に郵送。
- ・ 申込方法 / 同封の払込取扱表(図②)に所定事項を記入し、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料(窓口一二〇円・ATM八〇円)は申込者負担。

※注意事項

郵便局で払込した方は、同封の申込書を郵送する必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。

◇ 郵便局(ゆうちょ銀行)備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に左の事項を記入して支払い。

【郵便振替口座】〇〇七〇〇―七―四六四九〇

【加入者名】石川県立美術館友の会

【通信欄記入事項】

年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員のの方は現在の会員番号

④ その他

- ・ 会員証の有効期限・平成二十九年四月一日～平成三十年三月末日
- ・ 会員証の対象：記名者本人のみ(ご家族の方との連名受付はありません)。
- ・ 一度納入された会費の返金はできません。
- ・ 会員証紛失による再発行はできません。

⑤ 会員の特典

- コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員本人のみ)
- 企画展入場券進呈
(春季・秋季・冬季三回の企画展のいずれか二回に無料で入場可)
- 企画展の開会式(開会式がない場合は初日)にご招待
- 入館料の割引(要会員証)
- ① 同伴者二名までコレクション展、企画展観覧料が割引
- ② 会員本人のみ石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催展覧会を割引。
- 館主催諸行事への参加
- 館内カフェ「ルミューゼ ドゥ アッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、平日のみ)
- 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送

冬のミュージアムウィーク

一月二十八日(土)～二月五日(日)

開催中の企画展「絵画に見る江戸のくらし―浮世絵版画を中心に―」のギャラリートークが本期間中、二回予定されています。二月二十九日と二月五日の日曜日、ともに午前十二時からです。また、土曜講座も二回予定されており、展覧会をより深く楽しく鑑賞できるヒントがあるはず。詳細は6ページの行事予定をご覧ください。

昨年好評を博した「展示室でスケッチGO」を二月五日(日)午後一時から三時の間に行います。展示室の作品を磁気ボードにスケッチしてプリントアウト。所要時間は三十分程度です。気軽にチャレンジしてください。こちらは観覧料が必要です。

石川県文化財保存修復工房では修復作業に使う寒糊を炊く「寒糊炊き」と、そこでつかう寒の水を金城霊沢に汲みに行く「寒の水ツアール」が用意されています。どちらも二月二十九日(日)の午前十時と午後二時の二回開催。冬の金沢ならではの年中行事を体験してみませんか。

裸婦 らふ

昭和27年(1952) 縦115.3×横89.5cm

高光一也 たかみつ・かずや

明治40年(1907)～昭和61年(1986)



昭和五十一年、高光氏は六十九歳の時に、「高光一也人物画五十年展」を東京、金沢、大阪で開催しました。その時のポスターに選んだ作品がこの『裸婦』です。インパクトがあったのでしょうか。貼ると間もなくポストがとられていき、高光氏はしてやったりと心の内で叫んだそうです。

戦中から昭和二十年代半ばまでの作品は、丹念に人物をとらえた写実性の強いものでした。しかし、二十七年以降、作風は大きく転換し、力強い線とペインティングナイフを使った激しいタッチで裸婦像が

描かれるようになります。なかでも本作は愛らしい顔と彫刻的なポリユームをもったボディが魅力的で、生命力に満ちあふれています。

この頃から約十年間、日本の美術界を抽象象美術が席巻します。写実系の人物画家は対象にどう対応するかが課題となるのですが、高光氏は写実から幾何学的形体へと造形性を強め、さらに色彩を削り白と黒の世界へと向かっていきます。本作はその第一歩を刻む作品となりました。

次回の展覧会

会期:平成29年3月27日(月)～4月16日(日)

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第3～9展示室
名物裂と茶道美術	茶道美術名品選 I	第73回 現代美術展 [日本画・工芸・書]

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

毎月第1月曜日はコレクション

展示室無料の日(2月は6日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

2月の休館日は
13日(月)～15日(水)

石川県立美術館だより

第400号(毎月発行)

2017年2月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel:076(231)7580

Fax:076(224)9550

URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

ガン保険

チューリッヒ生命「終身ガン治療保険プレミアム」

既にガン保険にご加入されている方

●主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)

●保険期間:保険料払込期間:終身

月払保険料 **1,500円** (35歳男性)

追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

●主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)

●保険期間:保険料払込期間:終身

月払保険料 **1,500円** (43歳女性)

ガン保険にご加入されていない方

自由設計プランで、ガンの通院治療と診断給付金と先進医療まで備える

●主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)

●特約:ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除

●保険期間:保険料払込期間:終身

月払保険料 **3,216円** (40歳男性)

今、ガン保険にご加入されている方も、**通話料無料**でご加入されていない方も今すぐチェック!

0037-6001-62928

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。ZURICH 恐れ入りますが携帯電話等でおかけ直してください。